KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学

広報誌　No.78

春のこころ

特集　同窓会との連携

- 第2回公開講座
- 第3回オープンキャンパス
- 日本語に関する取り組み
- 地域探訪 くらしき＆おかやま②
- 海外ボランティア
- 川崎学園祭／卒業生の活動紹介
- インフォメーション

医療保育科6期生・発達障害児保育コース（撮影:二葉写真館）

特集 同窓会との連携

本学は 1973 年の開学以来、西日本屈指の医療・福祉系総合短期大学として、チーム医療の場で活躍できる有能な医療技術者の養成に取り組みながら、毎年多くの卒業生を送り出してきました。

いつの日か、在学生の皆さんも本学から巣立って行きます。同じ場所、同じ時間を過ごした仲間とも、離れ離れになってしまいます。同窓会は、同じ大学を卒業した人が再び集まるきっかけを作ります。また、先輩や後輩との新たなつながりが生まれる場となります。

今回の特集では、同窓会の活動を在学生の皆さんにお伝えします。そして、卒業後も様々なつながりを感じ、「ひとりじゃない」と安心できる同窓会を一緒に創っていきましょう。

小郷 正則 松丘会会長（左）と山口 恒夫 本学学長（右）

松丘会（しょうきゅうかい）

本学同窓会は 1980 年、その名称を「松丘会」としました。命名の由来は、当時の副学長、佐々木匡秀（まさひで）先生が 10 周年記念誌の中に書かれた「松島の丘に育つ梅の実に想いをよせて」という文章にみることができます。「松島の丘」から「松丘会」という同窓会名をいただいたわけです。

現在、「看護科」、「臨床検査科」、「放射線技術科」、「医療秘書科」、「栄養科」、「臨床工学科」、「医用デザイン科」、「介護福祉科」、「医療保育科」、「通信教育部医療秘書科」の 10 支部が活動しています。会員数は、平成 24 年 4 月現在で 13,347 名にのぼります。

同窓会から在学生の皆さんへ

第5代松丘会会長
（本学臨床検査科教授）
小郷 正則

岡山県倉敷市出身。川崎医科大学附属病院、本学臨床検査科に勤務し、2004年より現職。第3代松丘会会長も務め、2011年4月より第5代会長に就任。趣味は旅行。「今年3月に孫を連れて東京スカイツリーを見に行きました。お土産は『芋ようかん』」

同窓会は母校の応援団です。支援金や寄付金などの目に見える応援もありますが、社会に飛び立った卒業生たちの活躍そのものが、目に見えない形の応援になっています。母校と同窓会とが密接に連携するからこそ、川崎医療短期大学とその卒業生は、社会の中で大きな存在感を持つことができます。母校と同窓会とのつながりを強化することで、双方の活動が活発になり、強い力を持つことができるようになります。

松丘会は、共に同じ理念の下で学び、巣立った卒業生の集まりです。松島の緑多き丘に立つ母校とのつながりをさらに強化し、「活力ある学術団体として社会に貢献し続ける」ことを目指して進んでいきたいと思います。そのために、同窓会は、次のような企画をしています。

①新入生向けの医療福祉教養講座の大学との共催、②松丘会企画の公開講座の開催、③ホームカミングデーの大学との共催、④学生募集等への協力を通じた全国展開、⑤教育環境充実のための寄付。これらを5つの活動の柱として、松丘会と母校とが手を携えて発展していきたいと思います。特に、次の2点には重点を置きたいと考えています。

1）新卒業生の就職支援：同窓会の各地の支部同窓生の協力を得て、在学生の就職希望地に在職している同窓生を就職アドバイザーとして委嘱し、様々な情報を提供する仕組みを構築することを目指します。

2）母校への教育支援：教育支援金の寄付、特別講師による講義に支部の協力を得て同窓生を講師として派遣、松丘会寄付講座の開設など、教育支援の実現を目指します。

平成25年度は、母校の創立40周年にあたります。また、母校と同窓会が連携強化を開始して3年目になります。これを契機に、より一層連携を深め、これまで以上の成果を上げていきたいと思っています。在学生の皆さんならびに同窓会会員の皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

共に発展しましょう

松丘会相談役
（本学副学長）
下田 健治

長崎県島原市出身。本学臨床検査科に勤務し、本学教務部長、学長補佐を経て、2012年6月より現職。趣味は読書。「推理小説から哲学者のエッセイ、恋愛小説も読みます。年間150冊を目標にしていますが、今年も達成したいと思います」

同窓会と本学とは、互いに手を携えて発展していかなければなりません。本学が発展しなければ、同窓会はやがて弱体化するでしょう。また、同窓会の組織がしっかりしていなければ、母校である本学の存在も危うくなるかもしれません。このような深刻な事態を招かないよう、本学と同窓会とがこれまで以上に良好な関係を保つ必要があります。そうすることで、私たちの持つ専門知識と技術で社会に貢献していくことができるでしょう。

川崎医療短期大学の名前と価値を社会に広く認知してもらい、本学のブランドのもとに日本全国から受験生を集めるためにも、同窓会の組織力には大いに期待しています。また、同窓生の方々は、社会に根付いて活躍されておられることから、在学生の就職活動に対しても、これまで以上の支援を期待しています。

本学は、決して規模の大きな大学ではありません。しかし、大学の価値は規模の大きさだけで決まるものでもありません。規模の小ささゆえのきめ細かさ、親密さ、暖かさがあります。本学と同窓会の関係も、そのような関係だと思います。これは、川崎学園全体を通じて言えることかもしれません。

本学を巣立った卒業生は、わが校舎が川崎学園発祥の地として、由緒ある小高い丘にあることを覚えておられることでしょう。故郷を感じさせるこの丘の桜や梅の木々たちが、今も同窓生の来学を待っています。

松丘会と母校との協力関係の強化

松丘会と川崎医療短期大学の目標は、共に活力ある団体として永遠に成長していくことです。その具体的な企画として以下の５つを挙げ、力を合わせてそれぞれの発展につなげたいと思っています。

医療福祉教養講座の母校との共催

医療福祉教養講座は、全在学生を対象として年に10回程度開催されます。川崎医療短期大学の建学の理念である「人をつくる」、「体をつくる」、「深い専門的知識・技能を身につける」に基づき、医療・福祉に関する制度とその実情をより良く学ぶものです。

各学科の卒業生でそれぞれの分野で活躍している人を講師として派遣し、これまで歩んできて感じた社会人としての義務や責任などについての講演を今後行う予定です。就職希望の学生たちが、自分の将来像を描き、さらに先輩たちの仕事での生々しい内容に触れることによって、将来の選択肢を増やすきっかけになるような企画を考えたいと思っています。

松丘会企画による公開講座の開催

本会が公開講座を年に数回開催することで、在学生がさまざまな分野で活躍している方々の話を聞き、少しでも社会性を身につけることができればと思っています。皆さんのご来場をお待ちしています。

母校への就職支援と教育支援

母校との連携をより密にし、会員および新卒業生の就職支援を行います。そのためには各学科の支部同窓生の協力と連携を軸にし、進学、就職を希望する在学生に情報提供を積極的に行います。母校への教育支援金の寄附（拠出）、人的には、各学科支部の協力のもとに同窓生を紹介し、講師として派遣できる今まで以上にしっかりとした仕組みを作りたいと思っています。

平成24年４月に新入生を対象として卒業生による講演会が開催されました。参加した学生から、「臨床検査技師は幅広い分野で活躍しているのだと改めて感じました。裏方に見えますがとても重要な仕事なので、自分が臨床検査技師であるという誇りを持って将来働いていきたいと思います。卒業して国家試験に合格することがゴールではなく、社会に出てからがとても大切であると改めて感じたので、日々学ぶ気持ちを忘れず過ごしていきたいです」などの感想が寄せられました。松丘会による教育支援が確実に後輩の意識を高めています。

就職支援講座の様子

卒業生による講演会

窓会
丘会

ホームカミングデーの母校との共催

母校と連携して、平成24年10月の学園祭と同時開催で「第1回川崎医療短期大学ホームカミングデー」の準備を進めています。各学科の恩師を招待し、式典後には懇親会を開催する予定です。このホームカミングデーでは、会員相互の情報交換を図り、また在学生、教職員との交流を深めることで松丘会の発展につなげていきたいと考えております。在学生の皆さんが卒業された後でも、懐かしい人たちと再会できます。一人でも多くの方の参加をお待ちしています。詳しくは松丘会のホームページをご覧ください。

平成23年7月に開催された医療保育科のホームカミングデーを応援しました。

学生募集などに関する協力

母校と松丘会のネットワークを活用して、卒業生の子弟などに母校を紹介し、受験に向けての積極的な支援として「本学の概要や入試状況の説明、オープンキャンパスの内容の紹介など」、受験につながる丁寧な活動を行います。

松丘会のホームページをCheck！

- 松丘会からのお知らせを随時更新しています。
- 支部ごとの情報も掲載しています。
- ホームページ上で会員情報の更新もできます。

モバイルサイト

http://www.syoukyukai2011.com/

URL https://www.syoukyukai2011.com/dousou/

平成24年度　第2回公開講座報告

テーマ

「自立生活を支える介護予防」

社会医療法人全仁会 倉敷平成病院
リハビリテーション部 理学療法科
樋野 稔夫　氏

▲参加者をモデルに筋力トレーニングの実践中

平成24年度第2回公開講座が8月18日（土）午前10時から11時30分まで、本学体育館101号教室で開催されました。今回のテーマは、「自立生活を支える介護予防」と題して、倉敷平成病院リハビリテーション部理学療法科の樋野稔夫氏を講師にお招きしました。日頃の身近な動きに関心を持ち、適度な運動をすることで介護予防に結びつけていこうと、実際に体を動かしながら講演が進められました。当日は、暑いさなかにもかかわらず、地域の方や介護の現場で活躍している方など、65名が受講されました。

▲会場の様子

講演は、介護予防と運動の関係のお話から始まりました。まず、最初に簡単な動きから自分の思っているからだのイメージと本来のボディーイメージが合っているかを測定しました。続いて、運動不足によって寿命が短くなることや生活がパターン化することで運動機能が低下し、老化、転倒、関節痛を引き起こして介護が必要になることが説明されました。次に、運動をするうえで、「しなやか」「いつまでも」「ちから強く」「どんなときも」という4つのポイントのバランスを取ることが大切であるということが説明されました。

まず、「しなやか」については、筋肉伸ばし運動（ストレッチ）の説明がありました。筋肉の性質を理解することが大切で、筋肉は、自分で伸びることができないからはずみをつけずにゆっくりと伸ばしてあげること、自分の感覚を大切にして“つっぱり感”を感じながらストレッチすることが実践を交えて説明されました。次に、「いつまでも」については、有酸素運動（ウォーキング）の話をされました。ウォーキングの効果や、靴のサイズの選び方、服装について説明がありました。姿勢を整えて歩くために、腰に力が入るような感じを保つことが大切で、いすに座った状態で頭頂部の髪が3本引っ張られている感じを、参加者にも実際に体験してもらいました。また、脈拍の測り方を実践されました。脈拍を測定することで自分の“しんどさ”を把握し、普段と違えば無理をせずに休むことを説明されました。次に、「ちから強く」については、筋力トレーニングの説明がありました。どこを鍛えているのかを意識しながら行うこと、息を止めると血圧が急上昇するため、呼吸を止めずに行うことが基本になります。次に「どんなときも」については、リズム運動の説明をされました。“○○しながら”が大事で、気持ちいいからまたやろうと思わせるために、音楽に合わせて楽しく運動することを勧められました。最後に、頭を腰の上にすることで腰痛を予防できることなど、普段の生活の中での家事動作で気をつけることが説明されました。

参加者には、日頃の動きに関心に持つことで介護予防につながることを、本講座を通じて実感していただけたのでないかと感じました。

（医療介護福祉科　河邉 聡子）

▲配布したタオルを持って参加者がストレッチ中

第3回 オープンキャンパス

平成24年7月21、22日

22日の医療保育科の様子を皆さんにお伝えします

「夏休みの一日があなたを医療・福祉・保育のスペシャリストに導く!」というテーマで、平成 24 年度第 3 回オープンキャンパスが開催されました。日差しの照りつける暑い中、両日合わせて774 名の方が参加され、大盛況でした。

今号では、7 月 22 日に行われた医療保育科でのオープンキャンパスの様子を医療保育科 3 年次生の稲上 愛依と塩出 晴果がご紹介します。

模擬授業

「発達障害児保育実習」と「子どもと遊び」の模擬授業を、私たち在学生が参加者の前で披露しました。

発達障害児にアプローチする遊びを体験したり、割れないシャボン玉で遊んだりするなど医療保育科ならではの授業を体験していただきました。参加者から「楽しかった」などの声を聞くことができ、とても盛り上がりました。

発達障害児保育実習

参加者に人気のあった「ボールプール」はとっても落ち着きます♪

子どもと遊び

割れないシャボン玉！不思議でしょ。

卒業生による講演

医療保育科の卒業生で、岡山市公立保育園に勤務されている長光文香さん（医療保育科 4 期生）から、学生生活や就職活動などの貴重なお話をいただきました。参加者へのメッセージでしたが、在学生の私たちも「頑張ろう!」と思いました。

何でも質問コーナー

私たち自身の受験勉強のこと、入学後のサークルやアルバイトのことを参加した高校生にお話ししました。

学生ボランティアのみんなで頑張りました。最後に食べたアイスがとってもおいしかったです。

オープンキャンパスは、いかがでしたか？
またのご参加をお待ちしています♪

私の好きな○○ vol.2

昨年より始まった学内での企画の第２弾です。今回は、臨床検査科・放射線技術科・医療介護福祉科・医療保育科の１年次生を対象に開講されている「日本語」の講義の中で、「私の好きな○○」というテーマのもと、400 字のエッセイを書きました。集まった作品 121 点を選考した結果、優秀作品として２点が選ばれました。「好き」という思いを素直に綴(つづ)っており、優れた作品に仕上がっています。

医療介護福祉科 1年　境 泉

私の好きな友人

あなたには、何でも相談できる友人がいますか。私は大学に入学して、心から信頼できる友人と出逢いました。

大学生活は高校の頃より自由な時間が多い分、自分で決めなければならないことが増えます。入学してから１カ月ほどで新しい生活に慣れ、２カ月も経てば行動を共にする友人も決まってきます。

しかし、生活に慣れ気持ちに余裕が出てきた頃に、私は人間関係や勉強のこと、将来のことで悩むようになりました。そんな時に、ある友人が「一人で抱えこまないこと！辛くなったら相談！」というメールをくれました。今思えば、とても小さなことで悩んでいたように思いますが、あの時は友人のくれたメールに心から救われました。

この大学に入学したからこそ出逢えた友人です。今度は私が友人の力になろうと決めています。そして、この関係がずっと続けばと思っています。

川崎医療短期大学

放射線技術科 1年　杉原 奈緒美

私の好きなスポーツ観戦

私はスポーツ観戦が好きで、特にバスケットボールの試合観戦が好きです。

バスケットボールの試合はサッカーや野球などに比べ点数がどんどん入っていくため、スピード感が味わえます。また、スリーポイントシュートやダンクシュートなどの華麗なシュートパフォーマンスが披露されるたびに、会場がとても盛り上がります。

私は何度もプロの試合を見に行ったことがあります。試合時間残り１分で点数差９点というところで、負けているチームの反撃が始まることもあります。スリーポイントシュートやフックウルでどんどん点数差をつめていき、試合終了のブザーとともに逆転の１ゴールが決まり、「逆転勝利！」という試合が何度もありました。最後の１秒で試合結果が変わるほど、とても面白い試合ばかりで、観戦するたびに惹き付けられます。

きっと盛り上がり、楽しませてくれる試合ばかりなので、是非一度観戦してみて下さい。

川崎医療短期大学

HAPPY NEWS

本学では、１年次生の「文章表現」の講義における取り組みの一つとして、一般社団法人日本新聞協会の主催する「HAPPY NEWS キャンペーン」に、一昨年度より受講者全員で応募しています。これは、HAPPY な新聞記事にコメントをつけるもので、優れた作品は『心がぽかぽかするニュース』（文藝春秋発行）に収録されます。このたび、昨年度の全国の応募作品 12,879 件の中から、医療保育科２年次生の岡田 早耶香さんが選んだ記事（2011 年 12 月 22 日付け読売新聞「家族で『アナログ』ゲーム」）とそのコメントが、『心がぽかぽかするニュース 2011』（2012 年７月刊）に掲載されました。

地域探訪

くらしき&おかやま

by 写真部

vol.2 自然と歴史のまち足守

今回は本学から約12㎞北の足守地区（岡山市北区）を訪れ、緒方洪庵の誕生地をメインに自然豊かで見どころあるスポットを写しました。

緒方洪庵の銅像

緒方洪庵は江戸時代後期の蘭学者、医師、足守藩士です。1810 年に現在の岡山市北区足守に生まれ、17 歳の時に郷里を離れ、大阪・江戸・長崎で蘭学を学び西洋医学の研鑽に励みました。

29 歳の時、大阪での開業の傍ら「適塾」を開き、以来数多くの人材育成に心血を注ぎました。1862 年、幕府の奥医師兼西洋医学所頭取に就任しましたが、翌年、54 歳の若さで死去しました。天然痘の予防接種である種痘を日本で初めて行った人です。

近水園（おみず）

夏は新緑、秋は紅葉が美しい旧足守藩主木下家の庭園です。江戸時代前期に造られたと推定される庭は、遠州流の池泉回遊式で、池のほとりには数寄屋（すきや）造りの吟風閣（ぎんぷうかく）が立ち、水面に優美な姿を映します。

庭園の近くにはハグロトンボがいました。緩やかな河川に生息するカワトンボです。水面をひらひらと飛ぶ様子が印象的で、すごくきれいです。

木下利玄の生家

歌碑

近水園の近くには木下利玄の生家があります。利玄は足守藩主の一族でしたが、大正時代、白樺派の歌人として自然を歌った短歌を多く残しています。

牡丹花（ぼたんか）は咲き定まりて静かなり花の占めたる位置のたしかさ

洪庵茶屋（足守プラザ）

足守を探索してひと休みするには、もってこいの場所です。右上が洪庵うどんです。右下が近水の里といいます。

どちらもすごくおいしかったので、訪れた時にはぜひ食べてみてください。食卓には金魚鉢もあり風流でした。

足守は、このほかにも江戸時代の古い町並みや、歴史的建造物が多く残っており見どころ満載です。

一日ですべて見て回ることは難しいですが、自然と歴史に触れる良い機会になると思います。時間があればぜひ足を運んでみてください。

取材、撮影：臨床検査科2年 香西 亜耶、村上 麻理

海外ボランティア
～カンボジアの孤児院を訪問して～

看護科／木村 愛
野馬 有祐美
眞名子 茜

2012年3月私たち3人は、英語担当のカレン・アン・スタッフォード先生とその友人に案内していただきカンボジアに行きました。

初日はプノンペンで市内観光をしました。町はインドの影響を強く受けており、美しいお寺がたくさんありました。この日は、博物館などを見たり買い物をしたりして楽しみました。カレン先生は毎年カンボジアを訪れて支援を続けておられ、旅行中には細かいことまで説明してくれたため、困ることなく過ごせました。ホテルは一泊3人で2,000円程度で、日本より物価がとても安かったです。

2日目は孤児院に向かうため、大量の水を買い込み、軽トラックに乗って出発しました。孤児院では、貧困のために親が養育できない子どもや親を亡くした子どもがたくさん生活していました。幼い子どもたちは孤児院の中の教室で、大きくなった子どもたちは学校に通学して授業を受けており、勉強に対する意欲がとても高いと感じました。子どもたちは英語がすごく上手で、私たちにも英語で話しかけてくれました。私たちよりよほど上手で、人懐っこく、無邪気でした。私たちは、英語はうまく話せませんが、一緒に遊んだりしながらジェスチャーで頑張りました。

私たちは、日本からたくさんの洋服を持って行き子どもたちに配りましたが、女の子は特に喜んでくれました。女の子はやはり、もっと服がほしい、オシャレしたい、と思うのでしょう。ホントに喜んでくれてよかったです。そのほかに、風船や縄跳びで遊んだり、マニキュアを塗ったり、みんなでネックレスを作ったりして、子どもたちと一日中遊びました。孤児院にはボランティア用の部屋があり、そこに泊めていただきました。

▲軽トラックの荷台に乗って孤児院へ

▲長縄跳びや風船で子どもたちと交流

翌日は軽トラックの荷台に乗り、舗装されていない道を2時間近くかけて田舎にある孤児院の牧場へ行きました。

孤児院では畑で野菜を作り、鶏を飼育し、牧場で豚を飼っており、自給自足の生活を送っているようでした。お肉は御馳走でめったに食べられないのだろうと感じました。

▲孤児院の牧場でカレン先生と一緒に休憩

最終日には、町でお菓子やジュースを買って、夜にパーティーをしました。私たちはビンゴ大会を企画して、日本から持って行ったたくさんのプレゼントを景品として手渡しました。量が多くて持って行く時は大変でしたが、子どもたちの喜ぶ顔を見て頑張って持って来てよかったと思いました。時間が過ぎるのはあっという間で、カンボジアに行く前は不安だらけでしたが、本当に行ってよかったです。

▲ビンゴ大会で子どもたちに景品をプレゼント

私たちがカンボジアに行こうと思ったのは、日本と違う環境で生活することで、自分の中に変化を起こしたかったからです。帰国後は、物を大切にすることや節約すること、人の気持ちに配慮して行動することが大切であると感じています。そして、今の日本での生活が当たり前だと思ったらだめなのだと思うようになりました。就学支援などの金銭的支援のほかに、ボランティアの関わりによる精神的支援も大切だと感じます。“何もかも”はできなくても“何か”はきっとできるはずです。また機会があればぜひ行きたいと思います。その時は、洋服やおもちゃのほかに、ノートや鉛筆を持って行きたいと思っています。

第38回
川崎学園祭
2012年
10月6日(土)・7(日)
統一テーマ
「NEXT」

東日本大震災から1年半になろうとする今、被災地は復興に向けて確実に進んでいます。日本全国、世界各地から継続的な支援が続けられています。

しかしながら、今なお多くの方々がこの大震災の影響に苦しんでおられるのも事実です。私たちは、東日本大震災を決して忘れてはならないし、日本の将来に向けて、次へつないでいくために、私たちは何ができるのか、どのようにしなければならないのかを自分自身に問いかけ、確かな行動へと移していかなければなりません。

私たち川崎学園祭実行委員会は、「NEXT」というテーマに、学園祭に携わる全ての人々が、次への一歩、次なる挑戦をしたくなるような元気や活力に溢れた学園祭にしたいという願いを込めています。

地球温暖化対策
ワーキング
グループだより
NO.18
川崎エコプロジェクト

小さなエコ

1963年の3月、東京大学の茅 誠司総長は卒業式告辞でこんなことを述べました。

「個人の“小さな親切”は小さな雪のかたまりみたいなものです。しかし、その小さなかたまりが斜面を転がりだすと、次第にそれが大きくなって雪崩となり、やがて社会のすみずみまでが大きな親切で埋め尽くされることになります」素晴らしいですね。当然、茅総長の意向は“小さな親切運動”となって日本全国に広がりました。

さて、それから半世紀を経た今、私どもにはどのような雪崩現象が求められているのでしょうか。考えるまでもなく、それは“小さなエコ”による雪崩の発生です。

私ども一人ひとりが「テレビのつけっぱなしをやめる」、「待機電力カットのためにコンセントを抜く」、「ポットの保温をやめる」、「マイバッグを利用してレジ袋を断る」というような“小さなエコ”を心掛ければ、地球温暖化防止、環境保全という大きな雪崩を引き起こすことができるはずです。簡単なことです。“小さなエコ”を気軽にやってみましょうよ。

新任職員紹介

本学の仲間になった職員の方を紹介します。

小池 香里　庶務課　事務職員

学生の皆さんが、安心して快適に学生生活を送り将来の夢を実現されるよう、少しでもお役に立てればと思っております。

一つひとつに心を込め、丁寧な対応に努めてまいりますので、わからないことはいつでもお尋ねください。

卒業生の活動紹介

卒業生の絵本が出版されました

『キミが泣いていたら』
作／清水 光博　絵／sayu
吉備人出版(1,050円)

社会福祉法人もみじ会
障害者支援施設「パレットたつの」支援員

宮本 紗弓（ペンネーム：sayu）　医療保育科　5期生

この絵本の挿絵は、読んだ人が笑顔になれるようにと願いを込めて描きました。悲しくて泣いてしまうときでも、あなたの幸せを心から願っている人たちがいつも傍にいることを忘れずにいてほしいです。

学生の頃から、似顔絵やウェディングボード、Tシャツのデザインをしていましたが、その頃から「絵本を描いて、人を幸せにしたい！」という夢をたくさんの人に話しました。その思いが、今回の絵本の出版につながりました。今、兵庫県にある障害者支援施設で働いています。利用者の方々の幸せを願って、毎日笑顔で頑張っています！

主要行事（10月～12月）

10月

1日　介護福祉科2年介護実習Ⅳ（～11月3日）
5日　全学科午後休講
6日　学園祭（～7日）
〃　第3回公開講座
〃　第5回オープンキャンパス（～7日）
10日　臨床検査科2年臨床実習開始式
14日　AO入試後期（学生は校内立入禁止）
17日　医療保育科3年病児保育コース
　　病児保育実習（～11月1日）
19日　AO入試後期合格発表
22日　臨床検査科2年臨床（臨地）実習（～2月14日）
27日　看護科戴帽・授章式

11月

7日　看護科2年実習開始式
12日　看護科2年基礎看護学実習Ⅱ（～12月7日）
〃　医療介護福祉科1年介護実習Ⅱ（～12月1日）
24日　放射線技術科卒業研究発表会

12月

1日　推薦入試（学生は校内立入禁止）
7日　推薦入試合格発表

平成24年度

第3回公開講座

入場無料（一般の方の参加をお待ちしています）

講座名　**「ちょっと気になる子どもへの発達支援」**

※ 本紙76号で掲載した内容から一部変更いたしました。

講　師　中井　靖
（本学医療保育科 助教）

日　時　10月6日（土）
10:00～11:30

会　場　川崎医療短期大学
体育館 **102講義室**

申込み・お問い合わせ先
〒701-0194
岡山県倉敷市松島316
川崎医療短期大学　公開講座係
TEL：086－464－1032
FAX：086－463－4339
Eメール：koukai@jc.kawasaki-m.ac.jp

平成 25 年度　入試日程（AO 入試前期は終了しました）

試験区分 / 学科等	AO入試後期	推薦入試・公募	一般入試前期	一般入試後期 A（センター試験利用）	一般入試後期 B
看護科	小論文 面接 調査書 エントリーシート	小テスト 「国語総合」 「数学Ⅰ」 「英語Ⅰ」 から 当日1科目選択 面接 調査書	必須 「国語総合・現代文」 選択 「数学Ⅰ・数学A」 「英語Ⅰ・Ⅱ」 「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」 「生物Ⅰ」 から当日1科目 面接・調査書	必須 「国語」	小論文・面接・調査書
臨床検査科			看護科に同じ	必須 「国語」	―
放射線技術科			必須 「数学Ⅰ・数学A」 選択 「英語Ⅰ・Ⅱ」 「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」 「生物Ⅰ」 から当日1科目 面接・調査書	必須 「数学Ⅰ・数学A」	
医療介護福祉科			選択 「国語総合・現代文」 「数学Ⅰ・数学A」 「英語Ⅰ・Ⅱ」 「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」 「生物Ⅰ」 から当日2科目 面接・調査書	必須 「国語」	小論文・面接・調査書
医療保育科			看護科に同じ 面接・調査書	必須 「国語」	
出願資格	大学入学資格を有する者。オープンキャンパスに極力参加し、事前相談を受けること。評定平均及び現役・過年度卒・社会人を問わない。**専願**	大学入学資格を有する者で出身校の校長が推薦する者。評定平均及び現役・過年度卒を問わない。**専願**	大学入学資格を有する者。	大学入学資格を有する者。 Aは大学入試センター試験の指定科目受験者 ※A・Bのいずれかの選択出願 A：大学入試センター試験利用 B：本学独自問題（小論文）	
		※看護科への出願者は、医療介護福祉科を第二希望とすることができる。ただし推薦入試においては、第二希望で合格した場合も専願とする。			
入学検定料	25,000	25,000	25,000	25,000	
試験日	10/14(日)	12/1(土)	2/3(日)	3/17(日)	
出願期間	9/14（金）～10/4（木）[消印有効]	11/1（木）～11/22（木）[消印有効]	1/7（月）～1/26（土）[消印有効]	2/25（月）～3/9（土）[消印有効]	
合格発表	10/19(金)午前9時	12/7(金)午前9時	2/8(金)午前9時	3/19(火)午後5時	

川崎医療短期大学広報誌
「若きいのち」（78号）
2012年9月発行

編集発行：広報誌編集委員会
天野 貴司（放射線技術科・委員長）
河邉 聡子（医療介護福祉科・副委員長）
名木田 恵理子（一般教養）　見尾 久美恵（一般教養）
重田 崇之（一般教養）　影本 妙子（看護科）
永瀬 澄香（臨床検査科）　中井 靖（医療保育科）
山田 篤（庶務課）　重政 有里（庶務課・書記）

写真協力：二葉写真館
印　　刷：友野印刷株式会社
皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。
〒701-0194 倉敷市松島316
川崎医療短期大学 広報誌編集委員会
電話：086-464-1032（庶務課）
Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp
ホームページ　http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

編　集　後　記

今年の夏も厳しい暑さが続きました。岡山は「晴れの国」という名にふさわしい気候の地域ですが、夏場はもう少し日差しが緩やかなほうがいい、などと望むのは少し調子が良すぎるでしょうか。

今回の特集では、同窓会と本学の連携に着目しました。私は本学の出身ではありませんが、特集を通して、本学を卒業された方々からの温かな支援を感じました。私事ですが、先日、母校の同窓会の活動に参加する機会がありました。私が在学中には、すでに卒業されていた先輩から様々なお話を伺うことができました。その時に、同窓会というつながりのありがたさを深く感じたのを覚えております。大学の同窓生は、中学や高校よりも職業の内容が近い方が多くいらっしゃるため、参考になるアドバイスをいただけることも多いと思います。学生の皆さんも、機会があればぜひ活発に交流し、新しい知識や刺激を受け取ってください。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず、記事を執筆してくださった皆様に深くお礼申し上げます。　（重田 崇之）

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。